

1. 研究目的

普段、音と映像を使ったインスタレーションなどをみる機会が多く、卒業研究に向けて考えた結果、視覚以外のものを可視化する作品を制作してみたくなった。その制作により、視覚表現の可能性を探る。

2. 調査と分析

ノイズには色の名前が割り当てられている。名前の由来はノイズの波長や周波数などに関係していることがわかった。

それらの色に対応する心理的要素を色彩学などの面から調べてみると、たくさんのイメージがあった。それぞれの色を2つずつのイメージに絞ることにした。約500人にアンケートをとった結果、こういった結果が出た

 ホワイト	純粋、清潔
 ピンク	可愛さ、女性的
 ブラウン	落ち着き、地味
 ブルー	冷たい、冷静
 パープル	高貴な、妖艶
 グレイ	落ち着き、陰気

色のイメージは表情につながり、人の感性を表現できる。

3. コンセプトの立案

- (1) 視覚以外ものを可視化する。(今回の場合、音から色、そして感性への変換)
- (2) 客観的、論理的なものに、感性を組み合わせることにより映像作品を制作し、新たな表現の可能性を探る。

4. デザイン展開

(1) 人の表情

アンケートのイメージと色を参考に、モデルを使い表情を作ってもらい、さらにそれに合ったヘアスタイルとメイクを作り表現した。【図1】

(2) ノイズの色

表現として、ノイズの音、色、表情（感性を元に表現）がそれぞれに対応して変わっているのがわかりやすいように色 → 表情という順で動画へ表示させた。

5. 完成図



▲図1 それぞれの表情



▲図2 カラードノイズの色

6. 結論

「視覚表現の可能性を探る」という点では色と音と感性（表情）を組み合わせ、映像までの展開をうまく表現できたと考える。また完成品をみせてアンケートを取った結果、色に合ったイメージを感じ取る、という回答が多かった。

制作面では音への理解と、映像への理解が足りていない部分があり、難しい面もあった。

文 献

- [1] カラーイメージスケール 改訂版 - 2001/11/14
小林 重順 (著), 日本カラーデザイン研究所 (編集)
- [2] イメージカラーサンプル - 2001/9/10 南雲 治嘉 (著)
- [3] 史上最強カラー図解 色彩心理のすべてがわかる本 - 2010/7/16 山脇 恵子 (著)
- [4] IRO KOKORO KARADA 山脇恵子
<http://www.irokokoro.com/image.html>
- [5] JIS 慣用色名
<http://www.ts-depot.com/color/color/name03.html>